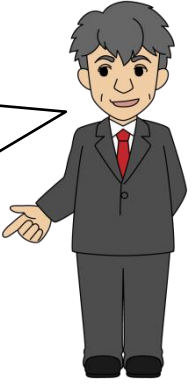


中世文書を読む(八)

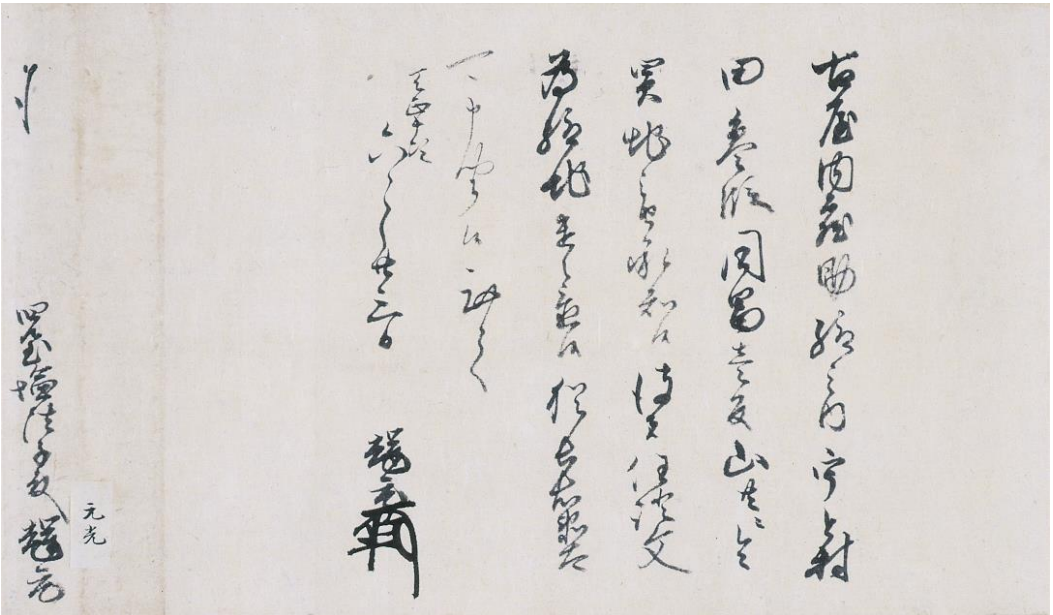
もうりてるもと

毛利輝元の手紙



これは、戦国大名の毛利輝元が出した手紙です。
この展覧会では、
この文書を題材に、
文書を読み解く過程を紹介し、
歴史の楽しみ方を
みなさんに分かち合いたいと思います。
ぜひ読んでほしいですね。

史料1



①
史料1をその言葉通りに
次のように読みます。



古屋因蔵助の給地のつら、宇治村の
田参取、同じく宇治村の田参取、山崎のつら
おまんが買ったといふ、承知した。古屋の売買証明
書に従い、おまんが給地をつらとす。なお、(詳)は
長井右衛門太夫が申し聞かせたもの。謹言。
天正十四(一五八六)年
六月十三日
輝元(花押)
(墨引) 兒玉輝元殿 輝元
(付け紙) 元光

②

「古屋内蔵助」

次のようが分かります。

(1) 古屋内蔵助は

「甲子辰」「乙未らむだ」「給地」のうち

二段の田「一畝の幅を山と共」

「兒玉権左子」に対し売渡した

(2) 毛利輝元は

その田をなま

「兒玉権左子の」「給地」とした

※1段(反) ≒ 1,188㎡



③

毛利輝元は、戦国大名

「兒玉権左子」に「なま」の

『中世文書と語』に「田」

「兒玉権左子」の子供「なま」

「権左子」の「なま」を「なま」

「なま」の「なま」を「なま」

「なま」の「なま」を「なま」

「なま」の「なま」を「なま」



④

「古屋」の読みは

「なま」か「なま」か、分かりません。

「内蔵助」は「なま」か「なま」と読みます。

この五年後の天正19年(1591)

古屋は、別の「給地」を売った

「甲子辰」の「なま」場所不明だが

二段小の「なま」か所の屋敷を

信常市允「なま」渡した

※小=120歩
≒396㎡



⑤

「給地」は、殿様からもらった

大切なものなんじゃないか?

売ってもいいの?

なぜ、「給地」を売ったん?

売らんといけんは?

お金に困っていただけ?



⑥

「給地」は、武士にとって大事なもの。

殿様(主人)への「奉公」の証として

家臣(従者)がもらった「御恩」です。

この「給地」に「なま」

殿様は従軍などの「奉公」を求め

家臣は年貢を取って年貢を立て

「奉公」に励みます。

史料②

古屋(内)蔵助の給地のうち、田參段小(百二十歩)と、屋敷一か所をおまへが買い取ったこと、承知した。給地としつゝなま。役目なまをしつかりと務めよ。

天正拾九 輝元公
三月日 御判
信常市允のへ

『萩藩閥閥録』巻44〈信常太郎兵衛〉24)

⑦

給地を売っても「なま」

売った家臣は、もう

そこから年貢が取れません。

年貢は、

買った人のものになります。

一方、殿様は、

給地を買った人を把握して、

軍事に動員したり、

諸税を取ったりできるよついでに

その人に改め

「給地」として「なま」

史料①・②は、毛利輝元が

この対応をしたものです。

古屋さんが

なぜ「給地」を売ったのか

売った理由を記した史料は

ありません。

古屋さんに「なま」の史料は

史料①・②のほかには、次の

「毛利氏八箇國御時代分限帳」

「なま」の史料は、

「なま」の史料は、

「なま」の史料は、

⑧ 「毛利氏八箇国御時代分限帳」
のしなわい。



⑨

毛利氏は、天正15〜20年(1587〜92)頃
全領国規模で検地を行います。
これを「惣国検地」と言います。
この惣国検地の結果をまとめた帳簿が
『毛利氏八箇国御時代分限帳』
(以下「分限帳」と呼びます。)と呼ばれます。
ちなみに、今回の『中世文書選』は、
古屋内蔵助、児玉塩法子、信常市之丞のしな
わいの表のふたつ分限帳「記帳」をまとめたものです。

⑩

古屋さんは、知行高が29石
と少ないですね。
信常さんは、その約4倍の123石余
児玉さんは、約15倍の452石余
たぐひの知行(給地)を
せらへるごうございませぬ。



関係者の分限帳の記事

家臣名	分限帳の記載氏名	所在地		知行高合計	
古屋内蔵助	古屋内蔵助	備後国	三谷郡	29石	
		合計		29石	
児玉塩法子	児玉左衛門太郎 ※ 塩法子から改名します。	安芸国	高田郡	68石	3斗5升8合
		備後国	恵蘇郡	25石	
		安芸国	佐西郡	27石	5斗8升6合
		安芸国	山県郡	10石	
		周防国	都濃郡	209石	6斗2升3合
		出雲国	神門郡	100石	2升3合
		備後国	三吉郡	9石	3斗
		備後国	三谷郡	2石	2斗8升
		合計		452石	1斗7升
		信常市允	信常市之丞	備後国	三谷郡
備後国	世良郡			52石	7斗1升5合
備後国	三吉郡			50石	1升5合
合計				123石	7斗9升

⑪

実は、
二人の知行高はそんなに大きくないよ。
下の表とグラフが
分限帳「記帳」の知行高を基に、
この二人の知行高の家臣が何人いるか、
数えたものです。
この表とグラフをみると、
児玉さんと信常さんの知行高が
決つて大抵なごうが分かるございませぬ。



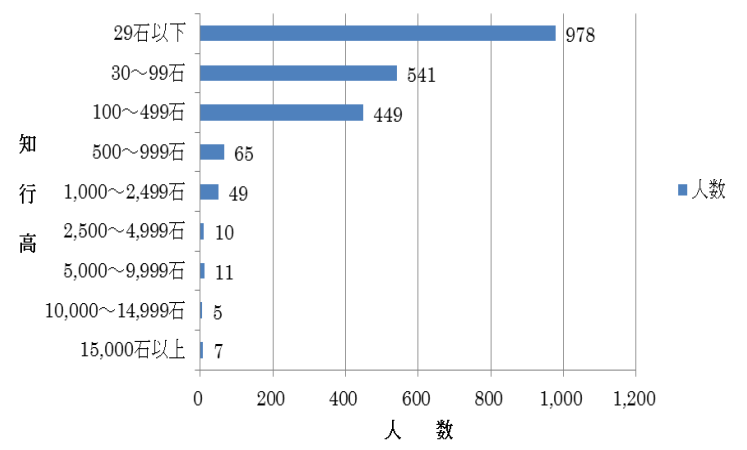
古屋さんが属するのは、ココ

毛利氏家臣の知行高別人数一覧表

知行高	人数	割合	93.05%
29石以下	978	46.24%	
30〜99石	541	25.58%	
100〜499石	449	21.23%	5.39%
500〜999石	65	3.07%	
1,000〜2,499石	49	2.32%	0.99%
2,500〜4,999石	10	0.47%	
5,000〜9,999石	11	0.52%	0.57%
10,000〜14,999石	5	0.24%	
15,000石以上	7	0.33%	
合計	2,115	100.00%	

信常さんと児玉さんが属するのは、ココ

毛利氏家臣の知行高別人数



⑬ 古屋ひなの「やい」
知行高が20石以下の家臣は
全体の46パーセント、約半だね！

戦国大名毛利氏の家臣団は、
知行高の小さい家臣が
圧倒的に多かったんじゃないかね。
彼らが主戦隊員で、
軍事力の中核になっていたからね！



⑫ ぼひゃね。三人のうち
最大の児玉ひなの「うん」も
毛利家臣主体で「うん」
そんなに大きいからね。
児玉ひな・信豊ひな・古屋ひなを
含めた知行高83石未満の家臣が
全体の88パーセント以上を
占めるよー！




⑮ 僕の家、三谷郡にあるんだもん。
近いよ。
「海鏡」って書いて
「ひい」って読む地名が
あるんだよなー！

【特定地域】
みよし風土記の五
ミニシヤム
マスコットキャラクター
「ひい」だもん



⑭ 話を古屋ひなの「うん」も。
分限「うん」も、彼は
備後国三谷郡（今の三次市商部）に
所領を持っていたよが分かりませぬ。
その五年後の「うん」
天正14年（1586）、彼は
「手入村」の給地を
児玉ひなの「うん」もった（甲斐一）。



⑯ なんだよ。
古屋ひなが児玉ひなの「うん」もった
「手入村」の
現在の三次市海鏡町と推測されるよ。
従来「手入村」は「ひい」
「手入村」と誤って「うん」の
場所が「うん」が分かるかながったんかね。
「うん」の「今」の
「うん」もが分かるからねー。

74 今 今 今 今 今
今 今 今 今 今
今 今 今 今 今
今 今 今 今 今

【用例】
『備後国三谷郡』(近藤出版社)に加筆

その
史料1・2で売りの渡した「給地」を
合計すると、下の表のようになるよ。
田・畑を併せて
サッカーグラウンド二面が
スッポリ入る大きさだよ。
これ「田」屋敷を足すと
イメージがわくかなよ...
「田」の屋敷の前「田」になるよかなよ
背後の「田」が「田」かなよ



古屋内蔵助が売り渡した給地の面積

	史料		面積合計	
	史料1	史料2		
田	3段	3段小	6段小	7,524 m ²
畠	1反		1反	1,188 m ²
その他	山	屋敷	山・屋敷	
場所	宇と村	?		

※ 1段 = 360歩 (坪)
※ 小 = 120歩 (坪)
※ 1坪 = 3.3m²

【参考】サッカーグラウンドの国際標準の大きさ
105m × 68m = 7,140m²
田6段の大きさ
3.3m²/歩 × 360歩/段 × 6段 = 7,128m²

古屋ひなが児玉ひなの「うん」もった
売りの渡した「給地」の
「うん」イメージが分かるかなよ？
この「田」のイメージが分かるかなよ？
この「田」のイメージが分かるかなよ？
この「田」のイメージが分かるかなよ？

おん「うん」古屋ひなの
備後国三谷郡「手入村」に
居住していた
何らかの事情で
「給地」を切り売りしたからね
ならなかったのじゃないかね。